

2015年10月18日（日曜日）

南ハケ岳縦走 3日目（赤岳～中岳～阿弥陀ヶ岳編）

～Report by 石井 (photo by 吉松さん・石井)

南ハケ岳縦走の最終日は、赤岳頂上山荘～中岳～阿弥陀ヶ岳を経て、中岳のコルから文三郎尾根との合流地点にある行者小屋へ向かい、南沢を下り美濃戸登山口～美濃戸口へ戻る縦走コースだ

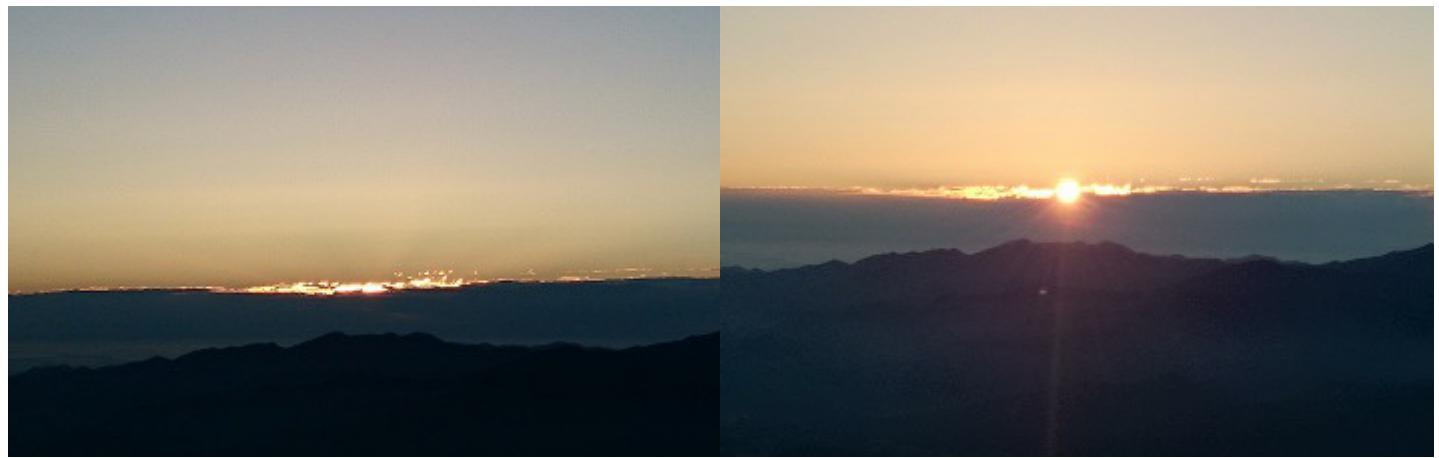


頂上山荘の朝食は早い、5：10から一回戦開始だ。  
このテーブルの若者が、槍ヶ岳を平気で2杯平らげた

吉松さんがご飯当番になっている

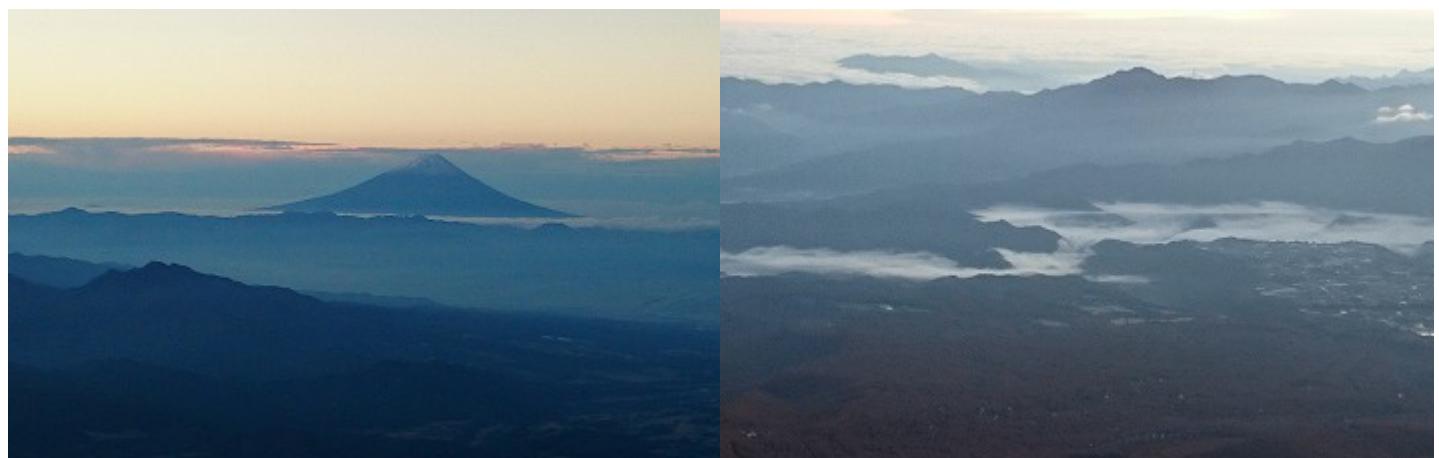


朝食後、稜線上でご来光を待つ  
快晴・微風  
冷え込んでいるが  
奥穂より暖かく感じた



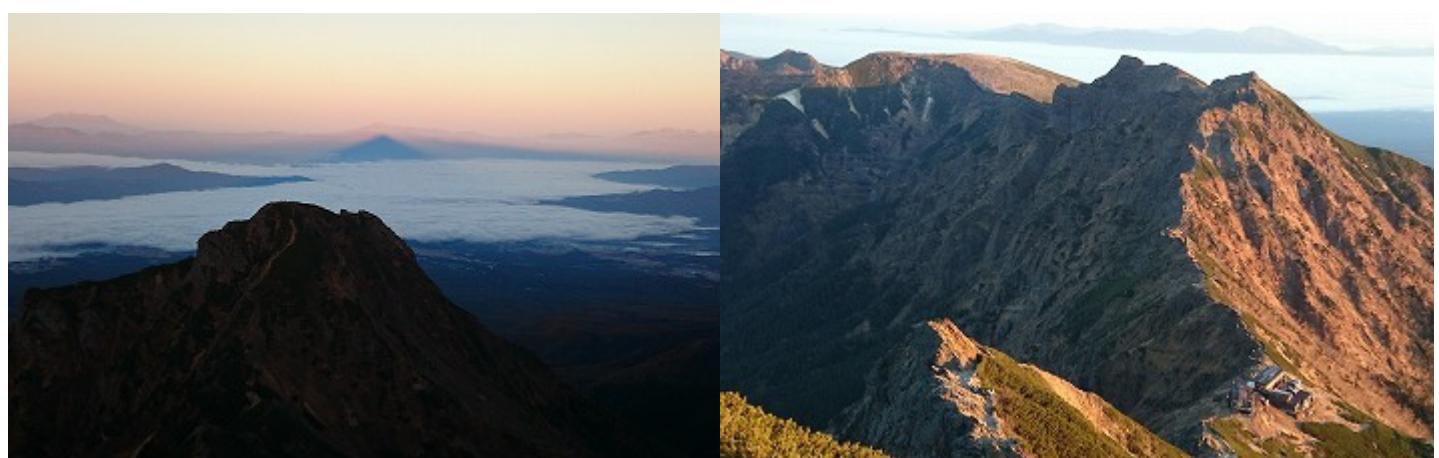
地平線上に雲があり、少し遅れて日の出だ

金の粒がはじけるように放たれた



富士山が裾を曳いている

諏訪湖は雲海の中だ

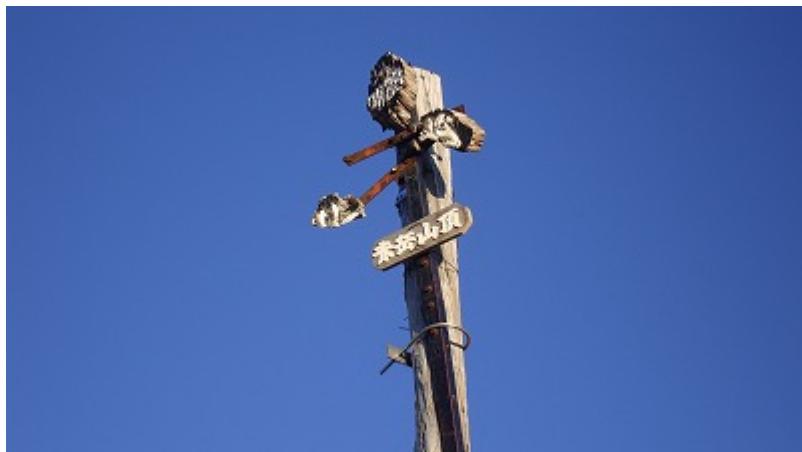


阿弥陀ヶ岳の雲海に「影赤岳？」が映り込む

天望莊～横岳～硫黄岳がモルゲンロートで輝く



出発前の靴箱は満タンだ  
スニーカー?らしきもの  
トレランから冬山仕様の  
オーバーブーツタイプまで様々だ



縦走路の  
赤岳山頂 (2899m) を登り直し  
クマさん会旗で記念撮影  
後方の祠は赤嶽神社だ



# いにしえの赤岳登山・特別編

(資料提供: 熊本さん)



1998年の赤岳登山  
行者小屋?で  
後方に大同心が見えている

右から、17年前の  
熊本さん・青木さん・堀さん



2000年の赤岳登山  
赤岳天望荘にて

右から15年前の  
原田さん・半澤さん



1998年・赤岳山頂



2000年・日の出の富士



赤岳・天望荘～横岳～硫黄岳

下山道はいきなり鉄梯子だった。その後の険しい岩稜の下りでは、朝一の動きが鈍いところへ吉松さんから「何をモタモタ」と笑いと檄！が飛ぶ



危険箇所を抜け

先輩、「朝一は体が動かなくて」と受け流すが

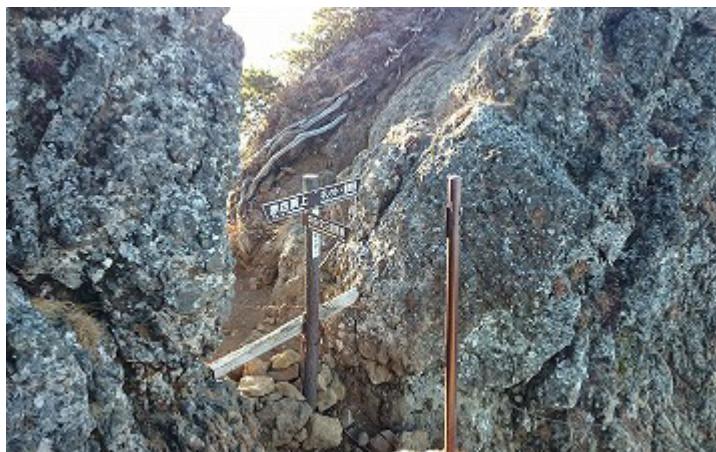
最初からハードな場面に遭遇する際は入念なストレッチが大事だと反省する



大勢の人が降りてくる

厳しいところの写真は無い

核心部での撮影は禁物だ



途中の分岐。キレット、中岳・文三郎方面へ



キレット方面の稜線。人影が点に見える



下を見ると  
数人上がって來るので待機した  
学生のGPだろう  
先頭の女性リーダー?が  
一番大きなザックを担ぎ  
「すいません7人来ます」と歯切れが良い  
(男の子) も2~3人いたようだ



昨日縦走した横岳の稜線がハッキリ見える



眼下中央に行者小屋。日陰の中に佇んでいる



下降中に見落としそうなパネル。誰かの創作だろう



前方の阿弥陀ヶ岳が視界に入つて來た



下降を終えると中岳が現れた  
平坦な場所から見上げると  
なかなか急登に見える  
後方の阿弥陀ヶ岳の岩稜が  
朝日を浴びて輝いている



左は、中岳の下り斜面から見た阿弥陀ヶ岳  
中央の草木の無い岩稜帯がルートの様だ

中岳の西側斜面は風裏になるのか  
ハイマツや植物が多い  
日陰なので霜がびっしりだ



中岳山頂の二人。 吉松さんは標識を「シャク」に見立てて持っている。聖徳太子だそうな



コルにザックをデポし  
空身で登攀にかかる



登攀中です  
手前に二段の梯子があった  
下山中のグループが見えたので  
先に取り付こうと急いだら  
ヘロヘロになってしまい  
写真を撮り忘れた  
年齢を考えねば・・・

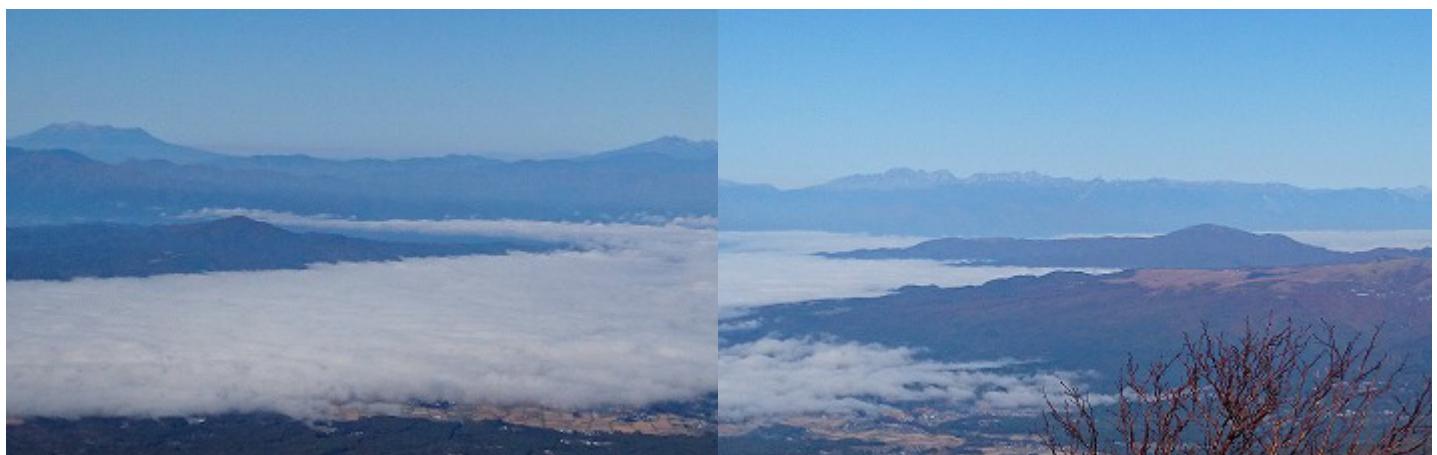


阿弥陀ヶ岳山頂（2805m）

で記念撮影

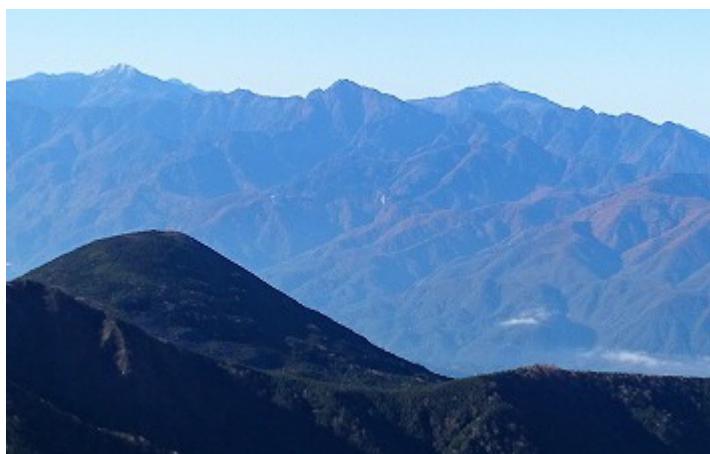
仏さまが祀ってあった

朝一番の赤岳からも360度見渡せたが、阿弥陀ヶ岳からの眺望がハッキリとしていた

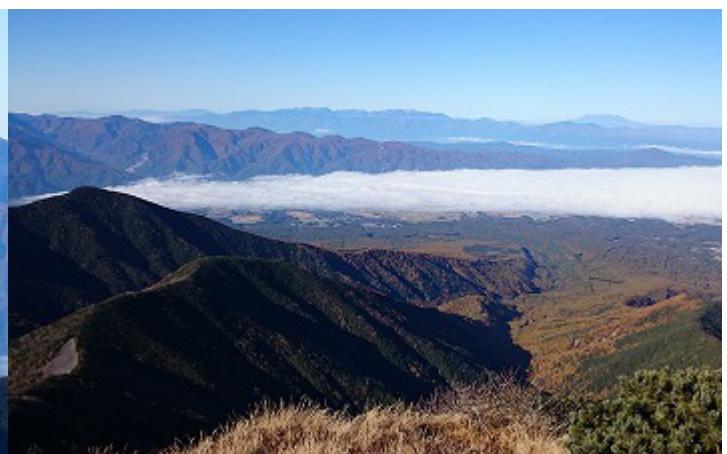


左奥が御嶽山、右が乗鞍岳

大遠望だが、穂高～大キレット～槍ヶ岳～立山



左奥に冠雪した北岳、右に甲斐駒、奥に仙丈ヶ岳か



中ほど奥に中央アルプスの山々

墨絵のような「富士山」



下山中です  
足を長く見せようとする吉松さん  
いつもの定番ポーズではない

こここの岩稜帯の登攀ルートは  
ペンキマークが無く  
判然としない  
大きな浮石も多く  
落石対応のヘルメットと  
落とさない歩き方が肝要だと感じた

下降中の岩稜帯で、山ガールズに出会った

山ガール 「山頂はすぐですか？」

山おじさん 「まだ～」 もう一人の山○・吉松さん 「そっけないね」

山○ 「この上の岩稜帯が危ないから気を付けてね」

山g s 「は～い」 (少し上に登って) 「やっぱり、まだ上だ～」 の声

山○ 「景色が良いから頑張れ～」

山g s 「頑張りまあ～す」

直後に、もう一人の山おじさんから「落」！の声

番外：「山頂にアイスクリームが売っているといいのにね」、「いつも思うんですよ」と言う

汗ビショ笑顔の山○も。 「いい天気ですね」のあいさつ返しがこれ



下山し、行者小屋へ向かう

霜が融けてぬかるんでいるところ以外は歩き易い



ここでも、ポーズがおかしい。本気のようだ



南沢経由、美濃戸への標識



あっという間に行者小屋到着。 小屋前の広場がゆったりだ。 陽だまりで、居心地が良さそう



「こんなところで、のんびり過ごせるといいね」と吉松さん。

「おでんで一杯！」



南沢を下る



その先にヘリポート



暫し休憩。 岩を三脚代わりにセルフタイマー



木橋のある沢を渡る。いつものポーズに戻った



美濃戸登山口までは遠いのだ。 黙々と歩く。 北沢よりも緑が濃い



途中に「ホテイラン」の自生地



やっと登山口の分岐に到着「バンザイ」  
中岳のコルから2時間30分



木漏れ日の林はいい



「新道と旧道？」の分岐があった。 初日は知らずに新道を通り、車に出くわしたが  
車の通らない旧道を行くことにする。 歩き易い



陽射しの紅葉は輝いている  
今年は大雪山・涸沢と見慣れたはずだが  
この季節ならではの光景だ



12:19、ハケ岳山荘到着



受付でお風呂をお願いしたが、ただいま満員との事  
定員制であがってこないと入れない。 良心的！？ 暫し待つことに



順番を待つ間  
何を注文するか悩んでいたら  
お風呂が空いた  
さすが！！  
山小屋の「立ち寄り湯」  
登山靴やザック置き場もあった



まずは、ビール  
モツ煮&ソーセージで乾杯だ



吉松さんのランチは  
カレーうどん





石井は  
すご～く、悩んだ挙句  
10食限定、「夏野菜カレー」  
本当？！の手作りでお薦めだと思う  
＊（食べたみた個人的な感想です）  
初日のランチを払拭出来た



南ハケ岳縦走が無事終わり、茅野駅15:55「はまかいじ」に乗り込む  
町田に停車するので吉松さんは便利だ  
甲府までガラ隙だったが、「勝沼ぶどうの郷」で満席状態  
ブドウ籠を携えた人達だ



車内で、毎度の一杯  
これにて一山落着  
また、色々と勉強になった山旅でした  
お疲れ様でした

そう、そう  
「晴れ男」だった！！